

令和7年度 調布市立深大寺小学校 学校評価報告書（学校長 箱崎 高之）

学校の教育目標		
◎やさしく 思いやりのある子    ○よく考え すすんで学ぶ子    ○健康で 明るい子    ○ねばり強く やりぬく子		
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像		
目指す学校像 【ごきげんな学校】 (1) 児童にとって 「喜びのある毎日が送れる安全で安心な学校」 【日々】 ・友達と関わることでできる喜び    ・学んで分かる喜び    ・心を解放して体を動かす喜び 【長い目で】 ・自分の存在が認められる喜び    ・自分の成長が実感できる喜び    ・自分の将来に希望がもてる喜び (2) 保護者、地域にとって 「誇りに思える私たちの学校」 ・よく見える学校→教育活動の積極的な発信    ・安心できる学校→素早く、丁寧で誠実な対応    ・私たちの学校→連携、協働の取組 (来校機会確保、学校HP、すぐーるの活用)    (子どもの成長を願って共に悩み、喜び)    (コミュニティ・スクール、地域とともにある学校づくり) (3) 教職員にとって「子供の成長を喜び合える学校」 ・風通しのよい明るい学校    ・やりたいことができる学校    ・成長できる学校 (まずは挨拶、コミュニケーションをしっかりと)    (できない、やらない理由を作らずにチャレンジ)    (学び、成長する機会の確保 職に誇りと責任を)		

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>										
1 豊かな心(徳)			2 確かな学力(知)			3 健やかな体(体)				
自己評価	(1) 具体的な取組		評価	(1) 具体的な取組		評価	(1) 具体的な取組		評価	
	①安全で安心な学校生活を送るために学年担任制を生かして、子どもの良さを多面的・多角的に見取り、自己肯定感を育む。		B	①週ごとの指導計画を作成、提出し、ねらいを明確にした計画的な指導を行い、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図る。		B	①挨拶を核とした深大寺小学校の生活目標「さしすせそ」の指導を徹底し、基本的な生活習慣の定着を図る。		C	
	②「感謝の心」を育む協働的な学びを取り入れた教育活動を行う。また、道徳授業改善のためにローテーション授業を行う。		A	②公開授業を年間 52 回行い、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善、子どもを主語にした学習を推進する。		A	②栄養士と連携した食育指導、養護教諭による保健指導を通して、心身の健康の保持増進に関する意識を高める。		B	
	③児童の心や身体 のSOSを早期に把握し、積極的かつ適切な支援を実施するために、「こころの健康観察」を実施する。		B	③校内研究の分科会を通して、教科担任制を生かした「子どもにとって分かりやすい授業」を追究する。		B	③ねらいを明確にし、運動量を確保した体育授業を行う。なわとび週間等の体育的活動を通して体力の向上を図る。		C	
	(2) 成果（数値目標に対して→結果）		評価	(2) 成果（数値目標に対して→結果）		評価	(2) 成果（数値目標に対して→結果）		評価	
	①市・魅力ある学校づくり調査「学校が楽しい」65%以上→71%		A	①国・学力調査・平均正答率国語 70%以上・算数 70%以上→国語 66%・算数 60%		C	保護者アンケート「お子さんはすすんで挨拶ができる」A 評価 30%以上→30%		B	
	②市・魅力ある学校づくり調査「みんなで何かをするのは楽しい」70%以上→79%		A	②市・魅力ある学校づくり調査「授業に主体的に取り組んでいる」55%以上→66%		A	②「朝食を毎日食べる」90%以上→88%「8時間以上寝ている」65%以上→62%		B	
協議会評価	③保護者アンケート「子供たちが安心して生活できる」A 評価 55%以上→44%		C	③市・魅力ある学校づくり調査「授業がよく分かる」55%以上→71%		A	③体力調査「体力合計点」都平均以上を達成した学年（男女別）80%以上→42%			C
	・「学校が楽しい」「みんなでするのは楽しい」の評価が高く素晴らしい。取組の成果が出ている。 ・校内教育支援センターの開設ができて良かった。誰一人取り残さない教育の取組が評価できる。 ・心の健康観察は、成果が上がっていると感じる。			・学力が高ければよいという問題ではないが、目標数値を設定しているので、近付けるとよい。 ・児童は、「授業がよく分かる」「主体的に取り組んでいる」という意識が高いのに、学力が数値として伴っていないことが少し気になる。			・挨拶をしても帰ってくる挨拶が少ないと感じる。 ・朝食や睡眠時間については、家庭の役割が重要なことである。 ・スマホトラブルなどあるので、情報リテラシーについて授業で扱えるとよい。			
学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>										
4 保護者・地域との連携					5 美しい環境の学校づくり					
自己評価	(1) 具体的な取組			評価	(1) 具体的な取組			評価		
	①保護者の来校機会を毎月確保する。HP 年間 150 回以上更新する。			A	①児童を「さん」付けで呼ぶなど、丁寧に正しい言葉を使い言語環境を整える。			B		
	②学校運営協議会で熟議を重ね、地域とともにある学校づくりを進める。			A	②靴箱の靴をそろえることや清掃の指導を継続して行う。			B		
	(2) 成果目標（数値目標）			評価	(2) 成果目標（数値目標）			評価		
協議会評価	①保護者アンケ「家庭で学校の出来事が話題になる」A 評価50%以上→52%			A	①丁寧に正しい言葉を使うことができる教員 100%→87%			C		
	②保護者アンケ「地域・保護者と協力した教育活動」A 評価 50%以上→56%			A	②靴箱の靴がそろっている学級、清掃が行き届いた学級 60%以上→53%			C		
協議会評価	・地域学校協働本部が機能している。学習支援のサポートや地域のサポート、協力が大きな成果を上げている。 ・学校運営協議会の熟議についての評価が A だったのは良かった。まだまだ、地域でできることがたくさんある。来年度も活発に話し合いができるとよい。				・先生の言葉遣いは、子供たちへの影響も大きいと思われるので、改善できるとよい。 ・企業では、5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）を大切にしている。そのような考えを取り入れていけるとよい。環境改善は、地域としても協力できることがある。					

人材育成・組織運営	
自己評価	○授業力の向上・10 学級で研究授業を実施し、授業力向上につなげた。・校内授業公開 52 回実施することで学び合いの機会を確保できた。 ○校務分掌等の活性化・主幹教諭を核とした組織運営を推進した。・起案文書の流れを徹底し、職の立場と役割を明確にし、意識を向上させた。 ○服務規律の徹底・定期的な研修と服務ニュースレターを活用し、教育公務員としての自覚と人権意識を高める取組を進めた。 ○ワーク・ライフバランスの推進・校務支援システムを活用して業務を効率化し、1 か月の時間外勤務 45 時間以内の教員の割合を 83%とした。
協議会評価	・昨年できていなかった研究授業をすることができて良かった。 ・1 か月の時間外勤務 45 時間以内の教員の割合が 83%ということは、まだ 20%程度は 45 時間を超えていることになる。そこを改善できるような取組が必要である。 ・休憩時間を確保するのはなかなか難しいと思うが、しっかり確保していく必要がある。 ・服務については、一年間を通して問題がなかったのは良かった。

中期的な経営目標の達成状況	
1誰とでも仲良く協力し、親切にできる子どもの育成については、総合的な学習の時間や行事において児童同士が関わる場面を増やすことができている。 2生涯にわたって学び続けることができる子どもの育成については、校内研究を通して主体的に学ぶ力を育むための授業改善を継続する必要がある。 3心や身体を大切にして、積極的に行動する子どもの育成については、体力テストの数値、運動の日常化において課題が見られ、改善が必要である。 4学校・家庭・地域が協働して子どもたちの豊かな成長を支えていく学校づくりについては、学校運営協議会を通して、課題について共有している。 5美しい環境の学校づくりについては、3階トイレの改修、算数教室の床張替、4階教室のFF 暖房機撤去を行うことができた。 人・組 授業力の向上、校務分掌の活性化、服務規律の徹底については、定期的な研修並びに校内研究を核として改善を進めている。	
次年度の重点課題	
○挨拶を核とした基本的生活習慣の定着    ○個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善    ○コミュニティ・スクールの取組	